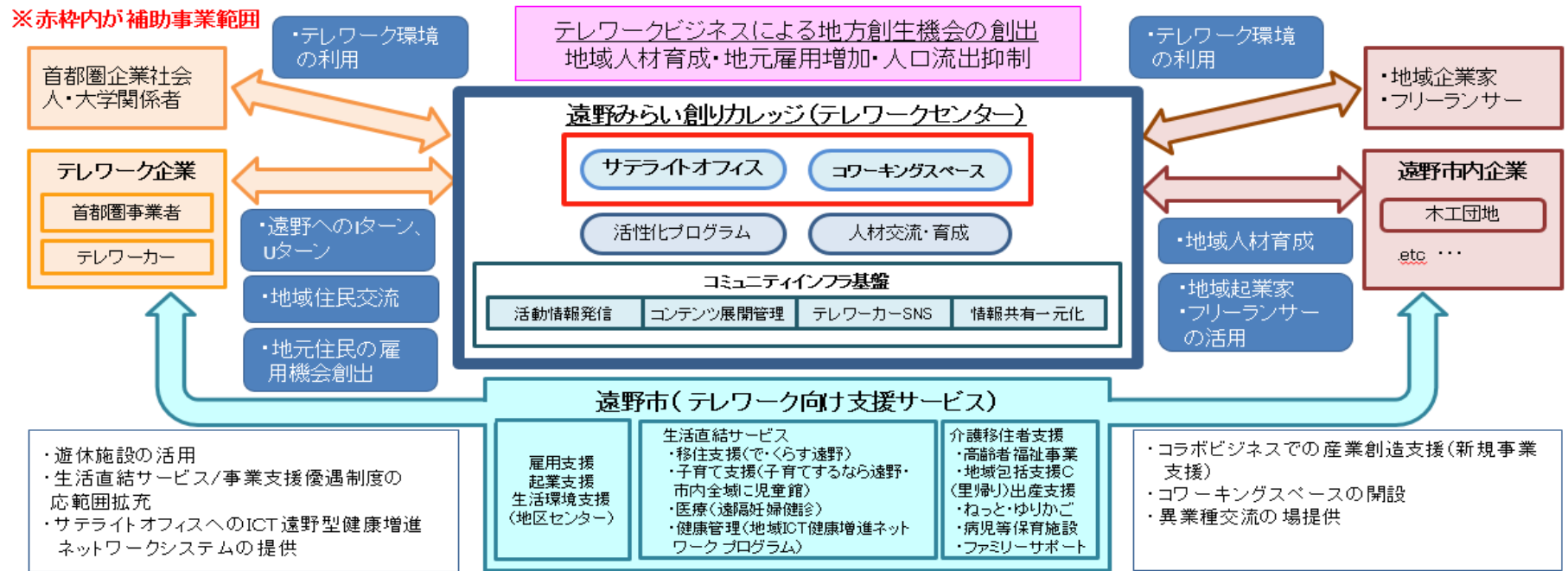


平成28年度 ふるさとテレワーク推進事業
「遠野型ふるさとテレワーク推進事業」
 遠野市（岩手県遠野市）

コンソーシアム名	遠野みらい創りテレワーク			
コンソーシアム参加機関名 (下線は代表機関)	<u>遠野市</u> 、(一社) 遠野みらい創りカレッジ、富士ゼロックス株式会社			
実施類型・人数	類型A：2名（平成32年度の目標10名）	類型B：-	類型C：未定	類型D：-
実施地域	岩手県遠野市			
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・閉校した中学校(現在「遠野みらい創りカレッジ」を開校)を活用して、テレワークセンターを立上。 ・富士ゼロックス株式会社(本社:東京)に貸与するサテライトオフィス及び起業家、フリーランサー向けのコワーキングスペースを整備する。 ・遠野みらい創りカレッジの産学官民のネットワーク(年間利用者約5千人)を活用し、テレワークをPR・体験させることにより、遠野市における継続的なふるさとテレワークの普及促進を図る。 			



平成28年度 ふるさとテレワーク推進事業
「遠野型ふるさとテレワーク推進事業」
 遠野市（岩手県遠野市）

■整備した拠点の概要

遠野みらい創りカレッジテレワークセンター

サテライトオフィス（約27㎡）：収容人数10名

コワーキングスペース（約66㎡）：収容人数14名



○オフィス環境 ○TV(WE B)会議システム ○W I - F I
 ○セキュリティ用カメラ ○セキュリティルーム 等

○コワーキング環境 ○TV(WE B)会議システム ○W I - F I
 ○セキュリティ用カメラ ○複合機（プロダクションプリンター）

■整備完了後の取組内容の概要

○事業計画 【類型A = 本社機能の一部をテレワークで行う】

富士ゼロックス社員が移住・長期派遣で業務を行う

H28	2名	(移住1名・長期派遣1名)	
H29	2名	(移住1名・長期派遣1名)	※のべ 4名
H30	2名	(移住1名・長期派遣1名)	※のべ 6名
H31	2名	(移住1名・長期派遣1名)	※のべ 8名
H32	2名	(移住1名・長期派遣1名)	※のべ 10名

○事業計画 【類型C = 都市部の仕事をテレワークで受注】

遠野みらい創りカレッジの利用者等への
 ふるさとテレワークのPRや体験に活用

H28	60名	(ほか、地域企業家やフリーランサーの利用)	
H29	840名	※のべ 900名	
H30	840名	※のべ 1,740名	
H31	840名	※のべ 2,580名	
H32	840名	※のべ 3,420名	

(参考①) 整備した拠点について

遠野市の遊休施設である旧土淵中学校内にテレワーク環境を整備し、(一社)遠野みらい創りカレッジが運営母体となり、富士ゼロックス株式会社が協力する体制でテレワークセンターを運営します。

遠野みらい創りカレッジは、平成26年4月に遠野市と富士ゼロックス株式会社が協働で行う地域振興のための活動として開校し、その管理組織として平成28年4月に(一社)遠野みらい創りカレッジを立ち上げ、カレッジプログラムを実施しており、その中でテレワークのPRや体験を行う計画です。

遠野みらい創りカレッジは、地域発展や産業振興、交流促進を目指すプログラムを展開しており、利用者は約5千人/年間を見込み、その約6割が市外から訪れていることから、その産学官民のネットワークにテレワークを組み入れていくことにより、テレワークセンターの利活用が期待できます。※別紙参照

○サテライトオフィス

(テレワークの実践)

- ・富士ゼロックス(株)がテレワークを実践する、サテライトオフィスを整備
- ・テレワークの効用・効果を体感できるデモオフィスとしても活用

○コワーキングスペース

(テレワークのPR・体験)

- ・遠野みらい創りカレッジプログラムへの参加者や移住希望者等への、テレワークのPRや体験に活用



※別紙

市と首都圏大手企業の協定により開校「ふれあうように学ぶ場」

遠野みらい創りカレッジ

富士ゼロックス(株) × 遠野市

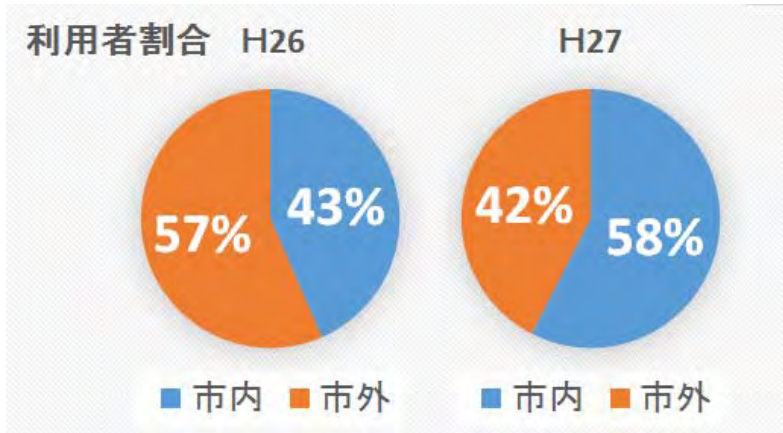


「遠野みらい創りカレッジ」とは、遠野市と富士ゼロックス株式会社が協働で行なう地域振興のための活動で、遠野はもとより全国共通の地域課題解決と地域創生へつながる新たな価値づくり・仕組みづくりを目指しています。

中学校再編により閉校となった中学校校舎（旧土淵中学校）を最小限の改修によって研修施設として活用し、さまざまな立場の人や知恵が集う「場」を創出。地域資源を活用し地域住民と企業・団体、大学、自治体などの連携を促すプログラムの企画運営や活動支援を行なっています。

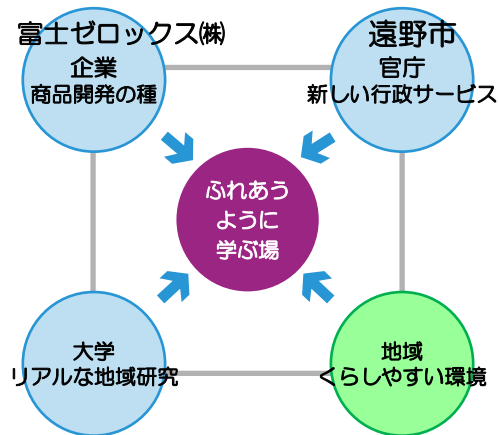
カレッジ利用者数

累計利用者数	
平成26年度	3,569人
平成27年度	5,327人



コンセプト

みらい創りカレッジは、企業・大学・自治体など様々な立場の人が地域に入り連携することでそれぞれの課題を発見し、成長支援のため知恵を出し合える場「ふれあうように学ぶ場」として設立されました。



- ・地域コミュニティとの連携
- ・グローバル規模の産官学連携
- ・遠野で検証した課題解決の仕組みづくりを全国展開
- ・地域の知恵を世界に向けて発信

【 H27プログラム 】

プログラム領域		概要
交流	みらい創り活動	自然や文化・食や芸術等題材の連携促進活動
	みらい創りキャンプ	オープンテーマの対話会・ワークショップ
暮らし文化	中高一貫学習プログラム開発	地域を題材にした中・高生向け教育プログラム開発
	学際連携	大学生の地域貢献研究活動の実践・政策提言
	地域研究	医療・伝承・防災等地域が求めるテーマ検討
産業創造	地域創生	地域リーダー育成を主眼においた研修等の課題発掘・プロジェクト
	産業創造	協賛企業や地元企業とおこなうビジネスモデル検討



(参考②) 整備完了後の取組内容について

○ サテライトオフィス

富士ゼロックス株式会社の社員が
サテライトオフィスで業務を行う。

※移住 1 名、長期派遣 1 名（年間）



※空き教室をパーティションと入退室管理装置で
サテライトオフィスに



※サテライトオフィスで本社とテレビ会議を行っている様子



※システムメンテナンス業務用にセキュリテールームを設置

○ コワーキングスペース

みらい創りカレッジプログラム参加者へのテレワーク環境の啓蒙活動やテレワークの効用を最大限アピールし、かつ、体感してもらい、テレワークの利用促進を図る。(840名/年間)

将来的には、地方移住希望、介護によるUターンなどにより発生しうる離職を抑止する施策としても活用する。



※地元酒造業者が首都圏のデザイン業者とテレビ会議とプロダクションプリンターでラベルデザインの検討を行う様子

※地元高校、首都圏の大学及びテレワークセンターをテレビ会議で結び、I・Uターン者と「ふるさとで働く」をテーマに意見交換を行う様子